

発明の名称: 急性中枢神経障害の予後判定方法

利用・用途・応用分野

無料開放特許

急性中枢神経障予後判定用キット、急性中枢神経障害患者の神経学的予後予測・治療

目的・課題

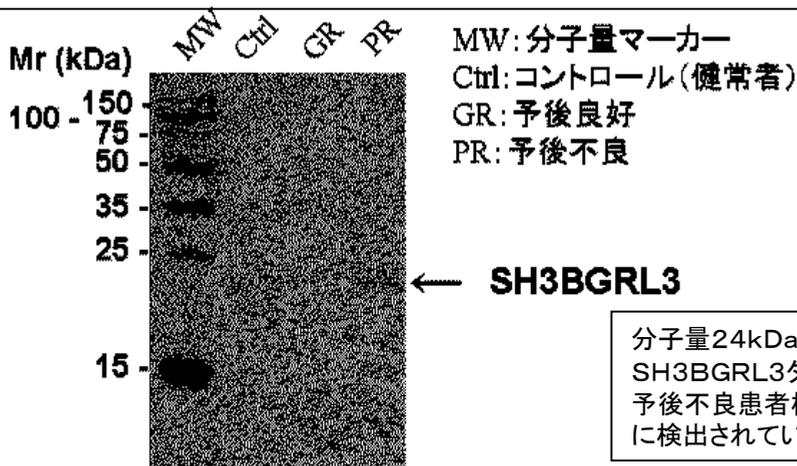
解決ポイント

従来、急性中枢神経障害患者の脳障害の予後判定は、6ヶ月後に行われているが、適切な治療を行うためには、早期に病態を把握することが必要である。このような状況から、急性中枢神経障害患者の神経学的予後予測のための早期マーカーを検索し、科学的に予後を判定する方法を提供することをその主な課題とする。

本発明者等は、TNF α の細胞溶解活性や細胞増殖抑制活性を阻害するタンパク質として、ヒト線維芽細胞より見出されたSH3BGRL3が、急性中枢神経障害患者の神経学的予後予測のための早期マーカーになり得ることを見出し、本発明を完成するに至った。

研究概要・アピールポイント

本発明により、早期に急性中枢神経障害患者の神経学的予後予測が可能となり、予後良好の判定が得られた患者には適切な治療を行うことにより、社会復帰の可能を高めることができる。予後不良の判定となった患者については、移植医療が抱える問題点であるドナーの脳死判定の科学的根拠の1つとなり得るため、臓器移植提供の協力要請を早期に行うことができる。



分子量24kDaのSH3BGRL3タンパク質(矢印)が予後不良患者検体にもみ特異的に検出されていることを表す。

◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp